

クールチョイスしよう

わたしは夏休みに入り、ソフトボール部の練習を毎日行っているのだが、今年は35度以上になると原則として屋外の活動は禁止になってしまい、なかなか思いきって部活ができない。しかし、炎天下での部活動はやはり日焼けをし、ひどいときにはやけどのようになってしまう。また、熱中症のリスクも高くなるので、今年のような部活がこれからは続くのかと思ってしまう。母の勤めている学校でもキャンプの屋外での活動が危険指数が上がったため中止になり、カレー作りやキャンプファイヤーなしの、宿泊学習になってしまったそうだ。暑くなったのを感じているのは我々人間だけではないようだ。梅雨くらいまでは口を結んでいたカラスが最近では朝から口を開けたまま、木の枝にとまって苦しそうにしている。あまり「カーカー」と声も出さなくなってしまうと大丈夫かと心配さえしてしまう。カラスなどの鳥類はパンティングといって口を開けっ放しで、浅く早い呼吸を行い、のどの奥の気道から体を冷やす方法をとるのだ。汗腺がないので汗をかかないため、パンティングや羽毛のない足から体温調節を行うのである。人間も動物もみんなが影響を受けている地球温暖化に対して私たちは何かできないのだろうか。



パンティングする鳥

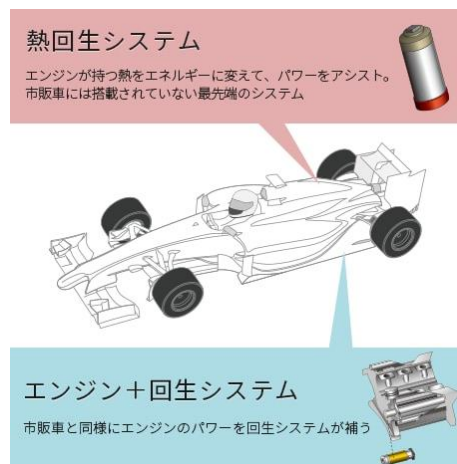
「COOL CHOICE」とは、2030年度の温室効果ガスの排出量を2013年度に比べて26%削減するという目標を掲げ、その達成に向けて豊かな低炭素社会づくりに向けた知恵や技術を「Fun To Share」で、みんなで楽しく共有し、発信していくことで、一人ひとりの行動や企業の製品開発など、地球温暖化対策への「賢い選択」を行うことを目的にしている。

わたしの住んでいる鈴鹿市はモータースポーツ都市宣言を行って、15年になる。鈴鹿サーキットもあり、鈴鹿8時間耐久レースや、F1グランプリなどが行われている。車からの排気ガスに含まれるCO₂も温暖化の原因だと言われるが、F1でもエンジンの生み出す熱をパワーに変える、熱回生システムな

ど、最先端技術を取り入れて内燃機関の効率化やハイブリッドシステムなどを追及することでエコ活動にも取り組んでいるようだ。ホンダ車でもハイブリッド車が多く、環境に配慮している。自治体と企業が一体になって環境に優しいエコ活動に取り組むことは大変大切なことだと思う。また、エコな車を購入し、エコドライブに心がけることで、社会全体が **COOL CHOICE** を行っていけると思う。

わたしが行っている「**COOL CHOICE**」は室温を 28 度に設定することである。快適に過ごせるように襟元が開くシャツや通気性がよく速乾性の素材の服を着用し、無理なく快適にエコに取り組むようにしている。また、朝顔やゴーヤなどのグリーンカーテンも活用することにしてしている。ゴーヤは夏バテ防止にもなる食材なのでゴーヤチャムプルなどで食べるようにしている。一番暑い時間は勉強もはかどらないので、買い物に出掛けたり、図書館に行くなどしている。一人のためだけに家を冷やすのではなく公共施設を利用し、クールシェアすることで少しでもエコに協力することができる。日中 1 番暑い時間にエアコンや電気の利用を減らすことを行うことは節電になりエネルギーを大切にすることにも繋がる。少し前に計画停電のニュースを聞いたことがあり、限りあるエネルギーを大切に利用することは次の時代を担うわたしたち高校生には不可欠である。

もう一つ **COOL CHOICE** になるとすれば、ごみを減らすことである。食べられるのに捨ててしまう食品をなくすことができれば、ごみ処理で無駄なエネルギーを出さずに済む。不必要なものを購入しないように心がけている。最近 NHK のアナウンサーがニュースの中で「コンビニやスーパーなどで毎日たくさんのが捨てられると聞き、できるだけ消費期限が迫ってきたものを購入するようにしている。」と言ったことにハッとさせられた。私は今まで、同じ商品ならばできるだけ新しいものを買って購入してきたが、捨てられてしまうものを少しでも減らすために消費者の私たちにできる行動の一つだと思



<F1 と “エコ” 熱回生システム>

い、私も消費期限の近いものを選んで購入するようにした。母もいい考えだと賛成してくれて買い物に協力してくれている。一人ひとりの活動はとても小さなことであるけれど私と同じように誰かの **COOL CHOICE** に賛同して活動を広げることができれば段々大きな活動につながっていくと思う。

「**COOL CHOICE**」は様々な場面で、環境に優しい選択を推進するものであり、誰もが実践できるものである。私たち一人ひとりが身近で簡単にできることを実践していくことで人間にも動物にも優しい低炭素社会を実現することができると思う。

引用

HONDA 革新技术への挑戦 -F1 パワーユニットを知る より
熱回生システムのイラスト